十勝農業の今を知り 未来を読み解く

酪農

規模拡大で乳量増
共進会でも好成績

十勝は乳用牛の飼育戸数、飼育頭数、ホクレンの受託乳量ともに全道一を誇り、国内有数の酪農地帯となっている。

2018年の十勝畜産統計によると、飼育戸数は3・3％減の1282戸。うち個人経営は57戸減の1063戸、法人経営は13戸増の219戸。個人経営が減る一方、法人経営は増加が続いている。

個人経営は101～200頭規模が最多の340戸で、全体の32％を占める。法人経営では400頭以下が139戸と最も多く、次いで1001頭以上が23戸、501～600頭が21戸となっている。

生乳出荷農家戸数は3・1％減の1148戸。1000㌧以下は50戸減の819戸だったが、1001㌧以上は329戸と13戸増加、全体の約3割を占めている。

他地区と同じく生産者の高齢化などで戸数は減少傾向にあるが、一経営体当たりの飼育頭数は増加している。

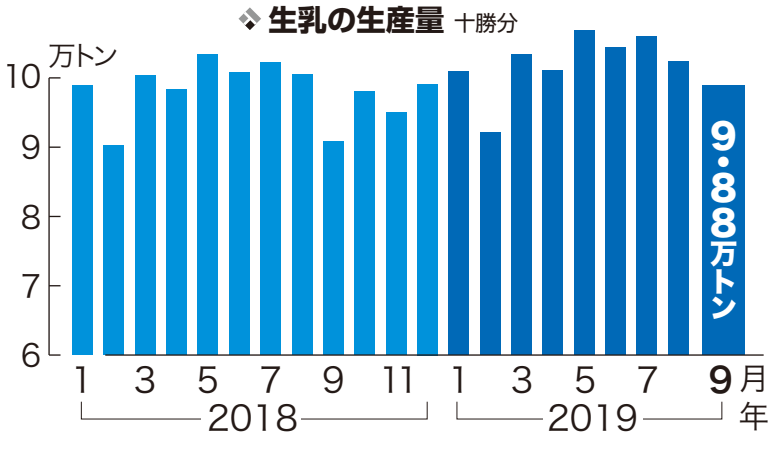
管内の生乳生産は今年度上半期（4～9月）、ホクレンの受託数量が前年同期比3・9％増の61万9434㌧だった。8月上旬の猛暑の影響で、同月は前年比1・8％減にとどまったが、他の月は3％台の高い伸びとなった。特に9月は、前年が胆振東部地震の影響で落ち込んだことから同8・8％増と大きな反動増となった。

管内はフリーストール牛舎、ミルキングパーラーの導入が盛んで、どちらも普及率は全道一だが、搾乳ロボットの導入もここ数年で増えている。畜産クラスターなど国の補助事業を活用して、牛舎の更新、ロボットの導入が進み、人手不足に悩む生産現場の省力化につながっている。

9月に開かれた第17回北海道総合畜産共進会の乳用牛部門で、最高位のグランド・チャンピオンにエンブレム―K（大樹）の出品牛が輝いた。準最高位は小椋淳一さん（上士幌）の出品牛。ジュニア、シニア部門でも十勝勢がチャンピオンを取るなど上位を席巻し、酪農王国を改めて印象付けた。

名実ともに十勝は酪農王国。広々とした八千代公共育成牧場に放たれる乳牛（帯広市）

グランド・チャンピオンに輝いたエンブレム―K（大樹町）の出品牛と、管理を担う穀内隆志さん



Cargill

リサイクル・メイト

嫌気性菌主体の複合微生物と酵素からなる、家畜ふん尿専用の発酵促進剤として
長年ご利用いただいている当製品が、DDの抑制と牛の歩行通路の滑りをとる効果があることが判明

粉末タイプ 20kg箱
（5kgアルミ袋×4）

牛の趾皮膚炎（DD）由来トレポネーマの増殖を強力に抑制
宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターの試験で判明し、酪農家と削蹄師の現場からの声を裏付ける結果となった。

↓

股裂き、転倒につながる通路の滑りやすさを大幅に改善
滑りやすさの正体は、通路のコンクリート上にできるぬめり（バイオフィルム＝生物膜）。
このぬめりがとれて、滑りにくくなったとの現場からの報告が多数寄せられている。

↓

良質発酵の家畜ふん尿による、健康な作物栽培の基本となる土づくりと環境浄化が可能に
公的機関、第三者機関の試験と酪農現場の評価がそれを証明している。悪臭とハエの発生も大きく減少し環境浄化に貢献。

輸入販売元
株式会社ファームテックジャパン
本　社　北海道札幌市清田区真栄4条2丁目8-1　TEL.011（885）3307　FAX.011（885）3308
お問い合わせは…担当：北［TEL.080（6066）6006］、中村［TEL.080（8292）4126］まで